

憲法第9条は日本の誇りです！

A・Hさん(健文医療労組 病棟看護師)

戦後60年を迎えた日本ですが、今、憲法が変えられようとしています。私はもちろん、私の母ですら戦後生まれの世代です。戦争の悲惨さは、歴史の授業や、人ずてに聞いたことしかありません。

今までに、東京大空襲の資料館や、靖国神社の遊就館の見学や、原水爆禁止世界大会に参加させてもらう機会があり、原爆の跡地を色々と回り、戦争の悲惨さに非常に心が痛みました。「もう戦争は起こしてはいけないんだ」という気持ちが強くなりました。私はずっと東京に住んでいますが、60年前に大空襲が本当にあったのか疑問に思うほど高層ビルが立ち並び、戦争を体験した人たちも少なくなり、戦争についての話が風化していくのではないかと心配になります。誰かが戦争の悲惨さを伝えていかなければ、再び戦争の時代が来てしまうのではないのでしょうか。

今、国会では「自衛隊を自衛軍にする」、憲法9条の「戦争放棄」の条項を「安全保障」に書き換えようとしています。色々なところで「9条の会」が発足されている中、私たちの病棟でも「9条の会」を発足しました。まだ発足して間もないため、具体的な活動はできていませんが、戦争に関する映画や舞台を見に行ったりして、戦争について、みんなで考え、戦争の悲惨さを、色々な人に伝えていくことが、私たちの「9条の会」の目的だと思っています。

私は、「平和な日本」しか知りません。戦争ができる日本は想像ができません。想像したくもありません。戦争を放棄する憲法がある日本が好きだし、誇りに思います。憲法改悪は絶対に反対です。

~~~~~

## 守ろう憲法！ゆるすな教育基本法の改悪を！

1・21東京集会に2000人が参加～  
品川正治経済同友会終身幹事が講演で、  
改憲の危険性を強調～

(当日の講演より)

私は旧制三高在学中に召集され、三週間ほどで北支(現在の中国北部)戦線に送られた。

1946年に復員。二度と戦争をしないと国家が宣言し、国民主権という形で国民に力が与えられた憲法草案を見た時、これ以上のものはないと感激した。

人々は惜しみない拍手を送り不戦を決意したものだが、この国の支配層は一度たりともそのような決意をしたことがない。ここにこの国の最大のねじれがある。

憲法九条は理想主義だろうか。私は決してそうは思わない。地域間や民族間の対立による争いをなくすのは容易ではないが、そうした紛争を武力で解決するのはやめようというのが、憲法の立場だ。

世界は今も戦争を起こそうとする力で満ち満ちている。石油やウラン、ダイヤなどを産出するアフリカの貧しい地域では、必ずといっていいほど紛争が起きる。国際的大資本を背景にした武器商人が入り込み、武力紛争となる。戦争を請け負うビジネスもある。国内統治に失敗した政権があおる、ゆがんだナショナリズムもそうした力のひとつだ。

国連など外交による力も必ずしも戦争を止めるものではない。戦争をする外交もある。だからこそ、絶えず発生する紛争を武力で解決すべきではないとする憲法九条は、武力紛争に対する最大の抑止力となりうるのである。

しかし、この旗印を守っているのは国民で、旗は（解釈改憲などで）ボロボロになってしまっているのが実情だ。

### 改憲の黒幕は米国

米国が最も利用しているのは、大西洋（側）における米英同盟。英国はイラク戦争に最も協力した。太平洋（側）について日米安保を動員しようというのが、現在進められている米軍再編だ。

「憲法第九条二項が変わっても自衛隊を米国の戦争のために使うことはない」とする考え方は、米国を甘く見ているか利用しようとしているとしかみえない。

もし日本が改憲すれば、日中関係が変わり、アジアが変わる。米国の世界戦略も変わるだろう。影響はベルリンの壁崩壊どころの騒ぎではないかもしれない。

最近、「改革か現状維持か」が強調される。憲法を擁護することは現状を維持するためでは決してない。改憲の黒幕が米国であることを知れば、人々は小泉首相のワンフレーズ政治にだまされることはないのではないだろうか

### 2.2 憲法改悪のための国民投票法案 学習決起集会

日時：06年2月2日（木）18：30～ 会場：全労連会館 2階ホール

講師：坂本 修 弁護士（自由法曹団団長） 参加費：無料

主催：憲法改悪反対共同センター 内容：70分の講演、行動提起、会場発言など

- \* 自民、公明、民主の三党は、第164通常国会に憲法改悪を直接の視野に入れた国民投票法案を3月にも提出すると言われており、いよいよ改憲をめぐるたたかいは第二ステージに入ります。
- \* 国民投票法案のねらいや問題点について、深く学習し、職場・地域・学園からこれに反対する運動を展開するためにも、東京をはじめ首都圏からの参加をお待ちしています。
- \* 当日は、すべて青年が中心になって運営します。青年・女性の積極的な参加をお願いします。